



情報誌

FAR

39 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

秋の北海道が楽しみです

会 長 山田 勝彦



桜の開花が各地から寄せられる昨今ですが、この会報が届けられる頃には新緑の美しい季節となっていることと思います。さて FAR 会の皆様その後お元気でお過ごしでしょうか。

私ごとになりますが、昨年 1 月に長年住みなれた京都府亀岡市の家を離れ、京都市の松尾大社近くのマンションに転宅致しました。もともとは京都市内で生まれ育ちましたが、京都医療科学大学に通勤する都合から亀岡市に移っていた次第です。松尾大社は西暦 701 年に建造された京都でも最古の神社の一つで、醸造の神様でもあり酒好きの小生にとっては好適な地と喜んでます。嵐山にも近く有名な渡月橋まで自宅から歩いておよそ 30 分でもあり、桂川の川面を眺めながらしばしば散歩を

楽しんでいます。さて今年の秋の FAR 会のご承知のように JSRT 秋季学術大会の開催に合わせて北海道札幌市で開かれます。北海道といえば JSRT 運営に多大のご貢献を頂いた岩佐先生や勝浦先生を思い出します。岩佐先生は JSRT の事務局が京都大学医学部放射線医学教室の一室を借りていた頃に会長に就任されましたが、当時、大学の学園紛争が甚だしく、大学と関係のない本会が事務所をお借りすることは到底困難となり、外部への早急な移転に迫られました。年 1 回開催の総会まで待つことはできず、総会承認なしでの事務所購入となり、この年度総会では事後承認となったため、総会は大紛糾しました。約半日での総会では承認されずに 2 日間に及び、最後は岩佐会長が壇上で「死なない程度に腹を切る」という名セリフでなんとか承認されたことが思い出されます。このような思い出多き北海道で開催される今年の FAR 会は、萩原康司先生が世話人代表として開催準備を進めて頂いています。詳細はこの会報で知らされますが「2014 登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅」としてご計画して頂き、インディアン水車を遡上する鮭の姿も見えるかもわからないとの事です。また宿泊するホテルでは庭園露天風呂やローマ風呂があり、風情豊かなホテルとのことです。露天風呂に浸かりながら昔の苦労話をするのも楽しい一時ではないでしょうか。春の総会では懇親会で皆様とお会いできますが、ゆっくりとしたお話はなかなかできません。でも秋季大会では一泊しながらの懇親会ですから、昔話に弾みもつくものと思います。私も北海道は大好きですが、とくに秋の北海道は素晴らしく今から楽しみにしています。是非とも万難をはいして多くの会員の方々がご参加頂きますように期待しています。

FAR 会は JSRT の役員をされた方々の OB 会です。JSRT も年々進化し最近では学会場で聴講しても内容はさっぱり分りませんが、過去があつて今の学会があるのだと思います。昔の苦労話をするのも楽しい一時ではないでしょうか。

多くの FAR 会の皆様と楽しい一夜を過ごせることを楽しみにしています。

内 容

- | | 会 長 | |
|------------------------|------|--|
| 1. ごあいさつ | 山田勝彦 | |
| 2. 2014 年 FAR 懇親の夕べ報告 | 速水昭雄 | |
| 3. 2014 年 秋の FAR 会案内 | 萩原康司 | |
| 4. 25 年度事業報告 | | |
| 5. 26 年度事業計画 | | |
| 6. 会からのお知らせ | | |
| 7. 追悼文「下野哲男先生を偲んで」 | 富吉 司 | |
| 8. JSRT 情報 | | |
| 9. 特集「私の時計」 | | |
| 1) 「時計あれこれ」 | 山田和美 | |
| 2) 「愛しき時計たち」 | 森 克彦 | |
| 10. 連載《お国自慢 生まれ故郷 阿久根》 | 富吉 司 | |
| 11. 編集の小窓 | | |

《2014 年 懇親の夕べ》 報告

代表幹事 速水 昭雄

今年の学会は4月10日から13日に渡り開催され、懇親の夕べは12日の総会終了後、学会場から比較的近い横浜市内西区戸部町で、明治初期の外人接待用遊郭跡地であったと云われている老舗の日本割烹「岩亀本店」で開催致しました。

今年は事前に申し込みいただいた29名が全員参加戴き、神澤先生の挨拶の後、私が進行を仰せつかり、最初に山田会長に挨拶を頂きその後、今回奥様同伴で参加頂いた四宮先生に乾杯の挨拶をお願い致しました。引き続き、多忙のなかFAR会のために来賓としてご出席頂いた江口大会長と市田実行委員長にご挨拶を頂きました。この後、お二人は「アジアからの参加者との懇親会」に出席するためそのまま中座されることになりました。

料理は和食のコース料理でありましたが、おしゃれな珍しい料理も用意して頂き皆さん大変満足して戴けたと思っています。途中で料理長にも挨拶していただきました。

飲み物はビール、日本酒、焼酎、ワインなどの飲み放題とし、気楽に楽しんで飲食できるコースといたしました。今回、筒井政光様から参加できないからと大吟醸の銘酒を2本差し入れて頂き、乾杯のあと皆さんと美味しく飲ませて頂きました。

懇親会は、次回総会の大会長平野さんの挨拶と宮高事務局長から今回出席していただいた3名の事務局のお嬢さんの紹介と特に最近結婚された澤井奈央さんのお祝い以外は、参加いただいた皆さんは、ほぼFAR会では顔見知りであることから特に自己紹介のようなものは省き、私の独断でランダムに指名させていただき手短な紹介と挨拶をお願いし、今回出席できなかった先輩の近況も報告いただくこともできました。わずか3時間余りの宴会ではありましたが、大変活気のある和やかな親睦会であったと感じております。

次回も唯一の地元横浜の会員である萩原さんには大変お世話になりますが宜しくお願いしたいと思います。

秋の北海道でのFAR会で元気にお会いできることを楽しみにしております。



四宮副会長の乾杯



江口大会長及び市田実行委員長のご挨拶



集合写真1



集合写真2



集合写真3



集合写真4

~~~~~

## 《2014 秋のFAR会》案内

### 「2014 登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅」

代表幹事 萩原康司

登別は、アイヌ語でヌプル・ベツ（白く濁った川）と呼ばれ、温泉は9種類の泉質を有し、45～90℃のお湯を1日1万トン湧出しております。古くは、江戸時代から温泉の名は知られ、明治初期に温泉宿が開設されました。私達が宿泊するホテルは、滝見の風情ある庭園露天風呂とローマ風呂が有名で、3種類の泉質を楽しめます。昔から、アイヌ人達は温泉（アイヌ語でクスリ）を薬湯として重宝していた様です。

温泉街からロープウェー（約7分）にて555mの山頂には第1・第2熊牧場があり、100頭程飼育されており、餌をねだる仕草がほほえましいです。

白老町（シラウオイ＝アブの多い所）にあるポロト湖（大きい湖の村）にはアイヌ文化を知る上で欠かせない博物館があり、伝統的な家屋（テーマ）やアイヌ文化の解説をして古式舞踊（実演25分）の紹介がされています。チオ市郊外のインディアン水車は、秋に遡上する鮭の捕獲場として知られており、運が良ければ多くの鮭をみることが出来ます。

北海道の紅葉（一部で黄葉とも言れる）は、通常10月末ですが、素晴らしい風景に遭遇出来るかもしれません。

皆様のご来道を5名の幹事にてお待ちしております。

#### 記

|      |                                                                                                         |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時  | 平成26年10月11日（土）～12日（日）<br>札幌コンベンションセンター前 13時出発                                                           |
| 会 費  | 25,000円（会員）、30,000円（非会員）                                                                                |
| 宿 泊  | 登別グランドホテル（北海道登別市登別温泉町154）                                                                               |
| 行 程  | 1日目 札幌(13:00) → 登別温泉(15:20)（地獄谷自由散策）<br>2日目 ホテル(8:30) → 熊牧場 → 白老ポロト湖コタン（昼食） →<br>インディアン水車 → 千歳空港(15:00) |
| 定 員  | 25名                                                                                                     |
| 申し込み | 第39号情報誌同封の葉書にて、7月15日までに申し込み下さい。                                                                         |

~~~~~

《報告事項》

【平成25年度事業報告】

1. 会員動向

- ・会 員 数：98名（平成26年3月31日現在）
- ・新入会員：5名（4月入会：熊谷孝三、佐藤幸光、平野浩志、西谷源展、5月入会：橋本廣信）
- ・死亡退会者：4名 砂屋敷 忠(2013/4/15死亡)、小山田 即(2013/7/25死亡)、西村信男(2013/11/13死亡)、下野哲勇(2014/3/5死亡)（下線は名誉会員）

2. 学術大会（春・秋）に合わせた懇親・交流事業の推進

1) 第69回総会学術大会時の企画「2013 懇親の夕べ」

4月13日（土）横浜市「レストラン・スカンディア」にて開催、27名参加

2) 第41回秋季学術大会時の企画「2013 佐賀を巡る旅」

10月19日（土）唐津「大望閣」（宿泊）にて開催、20名参加

3. 情報誌の発行

第36号を平成25年5月15日、第37号を平成25年9月15日、

第38号を平成26年1月15日に夫々発行した。

4. 世話人会議・運営委員会の開催

世話人会議を平成 25 年 4 月（横浜市）、平成 25 年 10 月（福岡市）で夫々開催。

運営委員会を平成 25 年 4 月（横浜市）、総務委員会との合同委員会を平成 25 年 8 月（熱海）、平成 26 年 1 月（京都市）で夫々開催した。

5. その他、広報関係

FAR 会ホームページを適宜更新し、メーリングリストを通じての情報交換に努めた。

【平成 25 年度収支決算報告】平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

収入の部			
科 目	予 算	決算額	備 考
前年度繰越	1, 026, 251	1, 026, 251	
年度会費	200, 000	180, 000	90 名
新入会分		8, 000	4 名
寄付金	50, 000	47, 000	真田代表(1 万円)、小倉副代表(1 万円)、第 6 9 回総会学術大会実行委員(2 万円)、四宮(7 千円)
広告料	0	0	
懇親会費	698, 000	732, 000	懇親会の夕べ(28 人、@9, 000 円)、佐賀への旅(18 名：@25, 000 円、1 名：@30, 000 円)
雑収入(利子等)	20, 000	24, 288	利息(4/1)、小倉、小山田(名誉会員)、砂屋敷：25 年度会費分、若松：24 年度会費分、石原：24 年度会費分、倉西：24 年度会費分、酒井：24 年度会費分、利息(10/1)、津田：24 年度会費分、高尾：26・27 年度分(名誉会員推薦)、筒井：26 年度分(名会員推薦)、下野：24 年度分
小 計	968, 000	991, 288	
預かり金収入	322, 000	58, 000	小倉、小山田(名誉会員)、砂屋敷：25 年度会費分を雑収入へ、平野(25-27)、西谷(25-29)、橋本(廣)(25-27)、若松(24-28)、前越(25-29)、小松(25-29)、石原(24-28)、丸山(25-27)、倉西(24-26)、今井(25-27)、川村(25-29)、齋藤(25-27)、花山(25-27)、高尾(26-27; 名誉会員推薦)、筒井(26; 名誉会員推薦)
(次年度以降分)		220, 000	
合 計	2, 316, 251	2, 295, 539	

支出の部			
科 目	予 算	累計額	備考
情報誌作成費	30, 000	40, 000	情報誌 36 号、35 号、37 号、38 号
懇親会経費	820, 000	864, 732	懇親会の夕べ(SCANDIA 29 人、@9, 000 円)、CD/CD ケース、佐賀への旅(19 名、第一観光(振込手数料含む)、他)、DVD ケース
会議費	50, 000	34, 800	情報誌 36 号発送作業(昼食費)、第 1 回世話人会お弁当、運営・総務合同委員会(8/21)
運営旅費	100, 000	123, 760	運営・総務合同委員会(8/21)
通信郵送費	70, 000	64, 908	角 2 封筒(200 枚)、はがき(110 枚)、情報誌 36 号(97 件)郵送費、角 2 封筒(100 枚)、情報誌 37 号(98 件)郵送費、ML 年会費(手数料含む)、切手代(80 円 x20, 10 円 x10, 140 円 x20)、はがき(100 枚)、封筒(角 2 ; 100 枚)、情報誌 38 号(92 件)
事務用品費	20, 000	4, 859	情報誌 36 号等のコピー用紙、領収書、情報誌 37 号等のコピー用紙、賞状用紙、情報誌 38 号等のコピー用紙
新規事業費	10, 000	0	
雑費	5, 000	0	会費振込手数料
(払込手数料等)		1, 480	振込手数料
小 計	1, 105, 000	1, 134, 539	
預かり金支出	322, 000	58, 000	前年度受取
(次年度以降分)		220, 000	今年度受取
次年度繰越	889, 251	883, 000	

合 計	2,316,251	2,295,539	
-----	-----------	-----------	--

3 月末

通常郵便貯金	1,214,437	974,367	記号番号 14480-30475391
振替貯金	86,380	166,900	口座番号 00920-9-179576
手持ち現金	101,434	19,733	
合 計	1,402,251	1,161,000	

【平成 25 年度会計監査報告】

F A R 会
会長 山田 勝彦 殿

平成 2 5 年度 (2013) 会計監査報告

- ① 平成 2 5 年度収支決算書
- ② 平成 2 5 年度事業報告
- ③ 郵便貯金通帳・振替口座引き落とし証明表
- ④ 現金出納簿および領収書
- ⑤ 郵便貯金総合通帳
- ⑥ F A R 会 会費納入台帳
- ⑦ 平成 2 6 年度収支予算 (案)

平成 2 6 年 3 月末日までに送付された上記資料のコピーに基づき会計監査を行い、適正に処理されていることを確認したので報告致します。

平成 2 6 年 4 月 1 2 日

F A R 会 会計監査

山田 和美



【平成 26 年度事業計画】

1. 学術大会 (春・秋) に合わせて親睦・交流事業の推進
 - 1) 第 70 回総会学術大会時の企画「2014 懇親の夕べ」
4 月 12 日 (土) 横浜市「岩亀本店」で開催予定
 - 2) 第 42 回秋季学術大会時の企画「2014 登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅」
10 月 11 (土)、12 日 (日) 登別グランドホテル一泊の予定
2. 情報誌第 39 号 (平成 26 年 5 月)、第 40 号 (平成 26 年 9 月)、第 41 号 (平成 27 年 1 月) の発行
3. 世話人会議・運営委員会の開催
 - 1) 世話人会議を平成 26 年 4 月 (横浜)、平成 26 年 10 月 (札幌) で開催
 - 2) 運営委員会を平成 26 年 4 月 (横浜)、同年 8 月 (関東地方予定)、平成 27 年 1 月 (京都) で開催予定
4. 会員相互に共通する趣味、活動の推進と JSRT と連動したホームページならびにメーリングリストを利用した会員情報共有を推進するとともに、新入会員加入に務める。

V. 【平成 26 年度収支予算書】 平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

(収入の部)

科 目	予算額	備 考
-----	-----	-----

前年度繰越	883,000	
年度会費	192,000	名誉会員4名を除く96名を見込
寄付金	50,000	前年並を見込む
広告料	0	計画なし
懇親会費	770,000	春：30×9,000、秋：20×25,000 北海道の旅（20名、@25,000円）
雑収入	20,000	利子等
合 計	1,915,000	

（支出の部）

科 目	予算額	備 考
情報誌作成費	30,000	情報誌 39, 40, 41 号編集諸掛
懇親会経費	950,000	春：30×10,000、秋：20×30,000 雑費：50,000 円
会議費	50,000	前年度並み
運営旅費	100,000	運営・総務合同委員会関係費
通信郵送費	70,000	情報誌郵送費他
事務用品費	20,000	情報誌等のコピー用紙他
新規事業費	10,000	
雑費	5,000	会費振込手数料等
次年度繰越	680,000	
合 計	1,915,000	

年度収支差額：▲203,000 円

《会からのお知らせ》

会員動向、事業報告内容、収支会計報告、次年度事業計画並びに次年度収支予算、情報誌発行計画、懇親活動等は報告事項記載の通りです。

■■ 訃 報 ■■

●元会員の酒井尚信先生は、平成 26 年 2 月 13 日に逝去されました。享年 78 歳。

先生は JSRT の運営及び後進の教育に多大の貢献をされ、千葉大学病院の技師長も務められました。

ここに哀悼の意を表しますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

●本会名誉会員の小山田即先生は、平成 25 年 7 月 25 日に逝去されました。享年 97 歳。

ご冥福をお祈り申し上げますとともに、遙かに合掌申し上げます。

~~~~~

## 《追悼文》

### 「下野 哲男先生を偲んで」

元鹿児島大学病院 富吉 司

永年功労会員の下野哲男先生が 2014 年 3 月 5 日に享年 81 歳で永眠されましたので、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

下野先生は、昭和 8 年鹿児島市伊敷に生まれ、昭和 26 年鹿児島県立工業高等学校を卒業後、当時鹿児島市城山にあった鹿児島医科大学病院に X 線助手として就任されました。当時の技師長は、X 線技師創世記の税所篤正先生であり、数名の技師と助手が活躍する和気あいあいとした職場であったと回想されています。就職時は、世間の全てが戦後の復興を目指して努力しており、物品は少なく設備は粗末であり、そのような状況下で簡易型の装置を駆使して最高の技術を発揮する「匠」の時代であり、X 線診療の右も左もわからないまま興味本位で仕事をしていたと述べられています。

昭和 49 年に、医学部・附属病院が現在の亀ヶ原に新築移転され、同時期放射線部が設置され技師長となりました。物だけは豊かな消費時代が到来し、また IC の発展に伴ってコンピューター利用装置が急速に普

及し、放射線装置にも利用され設備が充実してきたが、装置故障の修理は故障部品の修理交換ではなく、ブロッカー式を交換する方式となり技師の故障に対する対応の仕方が著しく変わったと述べられています。

下野先生とは、私が名古屋大学病院の放射線部に勤務していた昭和 53 年に鹿児島大学に帰ってこないかと声をかけて頂き、就職した時点から始まりました。昭和 60 年には日本放射線技術学会総会が鹿児島市で開催されることに成り、大会長として尽力されました。実行委員長として中村純雄副技師長が陣頭指揮を執っておられ、私も会場係として日夜走り回ったことを思い出します。先生が技師長時代、正月の仕事始めとして技師長宅で放射線部全員を招待して食事会が催されていました。それもちょうどが用意されており奥様との 2 人 3 脚をうらやましく思いました。平成 5 年 3 月に定年退官され、4 月からは薩摩川内市医師会立市民病院技師長として後輩の指導に、鹿児島県技師の指導にと尽力されました。平成 7 年に慢性腎不全と診断され、平成 10 年からは人工透析を始められ、15 年程続けておられました。当初は、孝行爺として元気で会議などにも出席されていました。(写真 1)。

平成 11 年には叙勲(勲 5 等瑞宝章)の栄誉を受けられ、叙勲祝賀会が盛大に催されたことを昨日のことと思い出されます。(写真 2)

時に優しく時に厳しく指導されたことを懐かしく思うとともに、先生の意志を後輩に引き継ぐこととお約束して、追悼の言葉といたします。



写真 1



写真 2

~~~~~  
《JSRT 情報》

『第 42 回秋季学術大会』 大会テーマ：「Ambitious 2014

－ make the next frontier, make the new future －

次のフロンティア、新しい未来へ 大志を抱いて

大会長：小笠原克彦（北海道大学大学院保健科学研究院）

会 期：平成 26 年 10 月 9 日（木）～11 日（土）

会 場：札幌コンベンションセンター

『第 71 回総会学術大会』 大会テーマ：「Be cool and Practical」

大会長：平野 浩志（信州大学附属病院）

会 期：平成 27 年 4 月 16 日（木）～19 日（日）

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

~~~~~  
《原稿・作品募集》

【第 40 号特集テーマに対する原稿募集】（9 月 15 日発行予定）

■□■□■□「 人生のターニングポイント (turning point) 」 □■□■□■

人は、この世に生を受けて個人としての人生を歩み始めると必ずターニングポイントに出会いますが、その対処法は千差万別であります。自分自身の人生を振り返り改めてターニングポイントで、選んだ道のりを執筆してご応募願います。特に、特集のテーマにまだ一度も応募されていない会員は、自分自身をアピールする機会ともなりますので応募宜しくお願い致します。勿論、既に複数回応募されている会員の応募も大歓迎です。

## 記

原稿内容：副題（自由にお付け下さい）

原稿文字数：800字～1200字（400字原稿用紙3枚以内）

写真：ご自身の写真（半身）文字数に含みません。内容に関する写真及び図表は、1枚につき原稿文字数から100文字を減じて下さい。

写真・図表は、デジタルデータが希望ですが、(JPG、PDF、EXL等) アナログデータも可。

原稿形式：ワード、一太郎、TEX等（ワープロ、手書きも可）

提出期限：平成26年8月15日必着でお願い致します。

送付先：森 克彦 〒350-0064 川越市末広町1-11-22 宛

E-mail：[mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp](mailto:mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp) mokamokawh@gmail.com

## 《特集》 「私の時計」

### 1) 時計あれこれ

流山市 山田 和美



日時計は原始の昔から使われていたことは、各地の遺跡から知ることができます。小学校の夏休みの自由研究にもしばしば取り上げられます。

私も作った記憶がありますが、緯度と季節によって補正しなければならないことは、後で知りました。

その昔、男の子にとって、時計というのは大変不思議な機械でありました。

まず誰でも思い出すのは柱時計でしょう。

文字盤の左右に黒い穴があり、ここにネジを巻く鍵のようなものを差し込んでぐるぐる廻すと、1週間くらいはちゃんと動いてくれる仕掛けになっていました。

分解した方もあるのではないのでしょうか。

ところで、身に着ける時計となるとかなり様相が違ってきます。

古いドラマに出てくるのは、チョッキのポケットから出てくる、くさり付きの懐中時計、これがなかなかカッコよかった。

私が就職した昭和36年頃には、国産の時計もかなりいいものが出ていましたが、まだスイス製の信用が強かったように思います。

それでも、多少の誤差は避けられず、戦争映画で「時計を合わせる」場面を見た方もあるはずです。

時計の精度については、長年スイスの独壇場だったのですが、日本のクォーツ技術が実用化され、あっという間に世界のシェアが変わってしまいました。

その後デジタル表示のものも現れて、価格も信じられないほど安くなりました。

その一方で、庶民には縁の無いような高級ブランド品が流通しているのも事実です。

なにしろ、腕時計で客の品定めをする、けしからんホテルやレストランもあるようです。

時計なんて狂わなければいいのだ、と強がりをついていながら少し寂しい気がしないでもありません。

現役の頃は少し背伸びして高めのものを求めたこともありましたが、今では無くしても怒られないように安めの実用品にしています。それでも電波で修正してくれますから、技術の進歩は大したものです。

私が鹿児島の高校を卒業して東京に旅立つとき、次兄が贈ってくれた腕時計はどんな経緯のものだったのか分かりません。新品ではありませんでしたが、しっかりと時を刻んでおりました。

懐かしい思い出です。

## 2)愛しき時計たち

川越市 森 克彦



現代社会では、時間の使い方が非常に大事であり、時刻を表示する時計の存在なくして生活が出来ないと言っても過言ではないでしょうか。しかしながら、時刻を計時する機器としての時計だけが、時刻を知らせるわけではありません。例えば、筆者の家では、時計以外で時刻表示が可能な、パーソナルコンピューター、タブレット端末、携帯電話、電子メモ機、電子書籍端末、デジタルフォトフレーム等、多くの機器が時刻を表示することができ、とても便利ですが、機器からくる思い出はあまり多くはありません。筆者の心に残る時計と実用に適した時計をいくつか紹介したいと存じます。

1. 筆者が、日本医科大学附属第一病院に昭和 44 年 4 月に就職後、20 年経過した、平成元年 4 月 15 日（大学



の創立記念日)に永年勤続記念に拝領した CITIZEN/QUARTZ の時計（写真）です。当時、同期の技師は 3 名おりましたので、業務の合間をみて会議室に行った記憶がよみがえり懐かしさがこみ上げますが、残念なことに一人は平成 13 年に日医大付属病院を退職し、もう一人は昨年他界しており、複雑な思いです。この時計は筆者の洗面所に置かれ、歯磨き・ひげ剃り・手洗い等の際に時刻を確認するのに役立っています。

2. GIRAUD/QUARTZ 時計（写真）は、平成 8 年 5 月 18・19 日に開催された、日本放射線技術学会、第



50 回東京部会総会記念品として、拝領したものです。当時、川村部会長（現・学会名誉会員・FAR 会員）総指揮の基、東京支部・部会の資料を統計的にまとめ上げて、東京部会第 50 回総会記念誌を作成してきたことが、懐かしく思い起こされます。この時計は、書斎のソファ脇において仮眠や・休息時に時間を確認しておりますが、文具や拡大鏡等を収納でき、計算機を利用するのにとてもありがたい時計です。

3. SEIKO/TWIN-PA 時計（写真）は、日本放射線技術学会第 60 回総会学術大会の実行委員会記念品に拝



領したものです。総会学術大会は、平成 16 年 4 月 8 日から 10 日の 3 日間にわたり、筆者が大会長でパシフィコ横浜会議センター他で盛会に開催できましたこと、実行委員会をコンパクトに纏めて無駄のない大会運営を成し遂げました、石井実行委員長及び実行委員の方々を思い出させる時計です。写真は、電波時計であり、日付・曜日・温度表示されるので、玄関に設置し外出時の時間の確認に大いに役立っております。

4. SEIKO(GLOBAL RADIO WAVE CONTROL)時計（写真）は、三田屋製作所創立 60 周年記念品（昭和



21 年 5 月創立)として、拝領したものです。三田屋製作所の工場は、筆者の居住地・川越市にあり、世界の X-ray グリッド専門メーカーとして、ご存じの方々も多いことと思います。この時計は、書斎の机の上に置おいて休養時に目を向けると、東京部会で工場見学をお願いして終了後、バーベキューで会社の皆様と楽しく懇談したことが思い出され頬が自然に緩むのが分かります。時計の特徴は、電波時計で日付・曜日・温度表示されます。

以上が、贈呈された時計ですが、この先は、私が必要に応じて購入した時計を紹介します。

5. CASIO 5WAVE（写真）は、ダイニングルーム時計ですが、食事・晩酌などで娯楽を楽しむ



時間が長いので大きくて見やすいデジタル表示の時計を平成 21 年 12 月 3 日に購入して壁にかけて利用しております。デジタル表示は、時間・日付・曜日・温度です。

6. CASIO IDC-110J (写真) は、書斎のデジタル化を行う中で、紙のカレンダーをデジタル表示することが目的で、平成 22 年 11 月 3 日に購入し机の前の壁に取り付けて使用しております。特徴は、カレンダーが、現在の月を表示するとともに右の一番上のボタンで前の月、2 番目のボタンで次の月を表示できますし、六曜表示も可能です。時計の部分は、日付(曜日)・時刻・温度・湿度が表示されますので、とても便利です。



7. CITIZEN Eco-Drive (写真) は、筆者が現役で通勤していた関係で、電池交換(以前の時計)及び時間調整をしなくてすむ時計を探して、平成 13 年 8 月に購入した腕時計です。この時計の型式は、アナログソーラーパワーウォッチと呼ばれるもので、機能としては、サマータイム、アラーム等の機能がありますが、使用したことはありません。日付と時刻が正確であれば不自由しないからです。現在では、あまり出番はありませんので、書斎の一番上の棚においており必要時に腕につけて外出する程度です。



8. DELICES QUARTZ(maruman)写真は、退職後、ウォーキングを始めたときに、時間が知りたくなることが(時間で歩いた距離及び帰宅まで残り何分かを推測する)多く続きましたので、携帯に良い時計はないかと探した結果、携帯用の時計を見つけて鞆に下げて使用していると、写真左側のつり下げる金属の部分が摩耗して1年8ヶ月余で落下してしまいましたので、同型の携帯用時計を昨年12月から、写真右側を使用しております。今では、ウォーキングの必須アイテム(鞆、携帯電話、財布、ハンカチ、ちり紙等)として欠かせない時計となっております。



最後に、何処の家庭でも居間に柱時計と言われる時計があると思いますが、筆者の家にある柱時計(写真)は、(CITIZEN RADIOCONTROLLED Hourly Sound) 電波式のアナログ・電池駆動の柱時計です。特徴は、3セット 18 曲の音楽の中から選曲して時刻に奏でることができる時計です。普段は、あまり選曲しませんが、クリスマスにジングルベルを奏でなど季節・記念日に奏でるようにセットして楽しんでおります。電波時計が一般に普及してきた現在では、時刻の修正が必要はなくなりとても快適に時刻を確認できます。ただ、ソーラー時計以外は、乾電池及びボタン電池を定期的に交換する必要があります。これからも、現代社会のニーズに合わせた時計が考案・作成されると思いますので、とても楽しみです。

## 《連載》お国自慢

### 「生まれ故郷 阿久根」

鹿児島市 富吉 司

私が生まれ育った故郷阿久根市を紹介します。阿久根市は、鹿児島県の北薩地方に位置し、熊本県境に近い田舎町です。(地図1)

人口は22000人ほどで、地方都市の模範になるような過疎と高齢者の町になっています。商店街はシャッター通りとなっており、開店しているお店を探す方が難しいほどです。



小売スーパー店で 24 時間営業を始めたスーパー A Z (エーゼット) が数年前に開店し、近隣の買い物客を集めて、一人勝ちの様相です。市街地のお店はこれによりほとんどがつぶれてしまいました。

九州新幹線が 5 年ほど前に開通しましたが、阿久根市には新幹線駅はなく、J R 九州から分離された「おれんじ鉄道」が薩摩川内から熊本八代まで運行しています。ローカル鉄道につきものの赤字路線であり、存続危機の瀬戸際にたたされています。

さて、阿久根市の歴史を Wikipedia から紹介します。「英祢 (あくね)」の地名は古代より存在しており、「アク」は魚や漁業を意味する言葉、「ネ」は岩礁を表し、古くから漁港として栄えた土地であり、平安時代には英祢院 (あくねいん) と呼ばれる荘園があったと伝えられています。鎌倉時代には莫祢と表記されていますが、1451 年島津用久により阿久根と改称され莫祢氏は島津家の家老となっています。

近年では、全国的に TV 報道された名物竹原信一市長を記憶されていることと思います。市職員の解雇や給料の張り出し、幹部職員の縁故採用など、市政に対する国や県の指導にも反抗して阿久根市政を混乱させていましたが、職員給与の引き下げ、労組との対決など一部市民に支持された市政を行ったことも事実として残りました。現在は、50 歳代の若い西平良将市長に交代し、安定した市政に戻っています。

主な産業は、漁業・農業で、特に漁業では、華アジ、華サバが内外に知られています。3 月～5 月は、ウニ井祭りと呼ばれてウニが 20 店ほどで提供され、B 級グランプリなどで話題を呼んでいます。(写真 1)

農業で有名なもので文旦 (ぼんたん) があります。果実は 500 g ～1 kg と大きく、果皮は黄色く、甘みは強く爽快な味がします。私の農園でも作っており、3 トン程度の収穫があり、指宿などの土産店で販売しています。(写真 2)

阿久根市の名所・旧跡・観光スポットを紹介します。

阿久根温泉は塩湯の湯治場として古来から栄えています。海岸沿いに湧き、皮膚病・胃腸病に効果があるとされています。特に、「グランビューあくね」の露天風呂は有明海の夕日が美しいと評判です。(写真 3)

阿久根大島は、阿久根市の沖合 3 km に浮かぶ周囲およそ 4 km の無人島です。無人島ではあるが、島内には海の家、バンガロー、貸しテントやキャンプ場などの宿泊施設があり、また「日本の水浴場 55 選」「快水浴場百選」に選定された海水浴場であり、夏場のマリンスポーツのメッカとなっている。島には野生のマガシカ 140 頭ほど生息している。

島の面積のほとんどを占める松林は 21 世紀に残したい名松 100 選に選出されている。

私も、船外機の船で島の周囲で潜りをしたり貝類や・アラカブなどの魚を釣ったりして生活の一部は、島となっています。

日本 3 大急潮の黒之瀬戸は鹿児島県長島町と阿久根市の間にあり、八代海と東シナ海をつなぐ海峡であり、幅 500m、長さ 4 km と狭いため、大変流れが速く干潮時には大渦が発生する。急流のため、魚類の身が締まっており、周辺の海では、鯛・アラカブ・たこなどがよく釣れる漁場となっている。

最後に私が生まれた番所ヶ丘を紹介します。江戸時代、東シナ海を通る船などの見張り番所があったことでこの名前の由来と思われます。丘の上ですが、泉がわき出ており、子供の頃水飲み場として利用していたことを思い出します。ここから見る夕日の光景は日本一であると自負しています。現在は、公園として整備され、ゴーカート・パターゴルフ・グランドゴルフ場があり市民の憩い場となっています。

阿久根市は、私を育ててくれた場所であり、今後何らかの形で阿久根市のためにがんばろうと思っています。



地図1 阿久根市



写真1 ウニ井



写真2 ボンタン



写真3 夕日

### 《編集の小窓》

筆者の居住する川越市の花「山吹」は、江戸城・川越城を築城した太田道灌に由来するもので、山吹は、



4月から5月にかけて咲き、花言葉は、「金運」「崇高」「気品」「待ちかねる」と言われています。「やまぶき色」とは、黄色ですが、太陽が当たった山吹の花は、美しい黄金色に見えることから「金運」という花言葉が付けられたものと思われます。また、春の季語として、古くから万葉集等で多く読まれており、日本文化に根ざした花の美しさから、「崇高」「気品」という花言葉は生まれたのですが、山吹の花には、一重と八重のものがあり、八重の花(写真)は、開花時期が少し遅いので、「待ちかねる」という花言葉にもなっています。なお、一重咲きには実ができますが、八重咲きには実はありません。会員の多くの方々のご存じと思いますが、戦国時代の武将「太田道灌」の逸話が有名です。あるとき、鷹狩りをしていた道灌は、急に雷雨に見舞われたので農家で蓑を借りようと声をかけたところ、農家の娘は蓑ではなく山吹の花を黙って差し出したので、真意が判らず帰っていきました。その後、この話を聞いた人より、「娘は、『七重八重花は咲けども山吹のみの(蓑)ひとつだに なきぞ悲しき』という、後拾遺和歌集の兼明親王の和歌の中の「実の一つだに」に「蓑一つだに」を掛けたもので「八重山吹の花が実を結ばないこと」に「貸すべき蓑がないこと」を意味していたことを知ったのです。この後、道灌は、歌を学び歌人として、

武将として文武両道で名声を得たと伝えられております。

(森 克彦・記)

### FAR 情報誌 No.39 (非売品)

発行日 平成26年5月15日

発行者 山田勝彦

編集委員会 森 克彦(委員長)

石井 勉 橋本廣信

山田和美

森:連絡先 Tel&Fax. 049-225-2619

Email:mokamokawh@gmail.com